

# 荒 鷺

5

福岡大学書道部機関誌

# 言 頭 卷

觀賞ということとはどんな事にもさうであるが、仲々むずかしい事である。世の中には通人というのがいて、随分とそのことにかけては広く、深く知っている人がいるが、さうした人としてその判断が正確だといふ切る事は出来ない。觀賞といふことは、理詰めで結論を出してゆく部分も加ゆるが、その多くはその人の情感に何を与えるかに依つてなされる。人、人によつてその感覚は違ふのだからどんな言葉もすべこの人にびたつと当てはまるようなものはない。その感覚が長い歲月の間にみがかれ、とたれてだんだん適格な判断となるのたうと思ふ。しかし最終的にはそれそれの人の顔が違ふように美醜に対する物差の目盛りの違いはどうすることも出来ないと思ふ。もしここに普遍的な価値に対する正確な目盛りのある物差が出来たならば、大変便利だと思ふし、作家もそれをたよりに製作する事が出来るかも知れないが、さうはゆかぬのだから面倒である。……觀賞者が個々の作品の前で何かを感じられるなら、美しいとか、幽玄だとか、雄大だとか、いや言葉に表わせない何かしう打たれるとか、作品と觀賞者の間に何ぞもよい通うものがあれば、それで觀賞は出来ているものと思ふ。だれでもきつと何か感じられるに違ひない。それでいいし、そこから始る。

第十回「現代書道二十人展」によせて

—— 村上 三 島 ——



# 目次

一年間の収獲	ある誤算	初 日	下宿生活と入部	書道部へ入部するにあたって	書道部への入部	書道部に入部して	題なし	新入部生に望む	巻頭言
法学部二年末	法学部一年	法学部一年	経済学部一年	商学部二年	工学部一年	工学部一年	工学部一年	経済学部三年	
宗 堅太郎	竹之内 順三	前崎 恒春	渡海 昭宏	工 藤 精一	葉 玉 幸俊	松 本 光明	近 田 小二郎	有 田 康 宏	
11	11	10	9	8	7	6	5	4	1





女子部員の積極性	商学部二年	海尾千代子	13
福岡学生書道連盟と福岡大学書道部	法学部二年	平井晴彦	15
福岡学生ペン習字研究会の発展性	経済学部三年	木村英良	18
ペン軸と黒インク	経済学部三年	宮原邦生	19
春におもふこと	商学部二年	徳久政機	21
社会人一年生	昭和四十年度卒	高松俊三	28
現代女性気質	先輩	原通幸	29
「高群逸枝」という女	経済学部四年	渡辺正道	31
雑談 (三)		近藤敏則	35
編集後記			36



# 新入部生に望む

経済学部三年 有田康宏

書道部に入部して間もない新入生の皆さん、君たちの中には、ようし一つ自分も字をうまく書いてやろう。また人並には多なかけるようになりたい。また書道とはどんなものか、というように各人各々にいろいろな事を胸に抱かれて入られたことだろうと思います。しかしこれも二、三、四ヶ月と時が過ぎると同時にあまりにもじみば練習とふまれたり、けられたりする内に、入部の時の気持ちとはだんたん異つてくるだろうと思います。このような時、自分はなぜこのようなクラスにはいったのだらうか、というように思い、クラスを去って行く。しかし、そこでやめる人は何をやって中途半ばなことしかできないたらう。一度やりはじめたら最後まで徹底してやること、これがもっとも大切なことだろうと思います。今まで述べたように毛筆にしる、ペンにしる、非常にじみなものです。このじみば練習の中に我が身を投げ出

し、一歩づつ歩んで行くことは、書技向上だけでなく人間形成の面に大きな役割を果たすのではなにかと思えます。現代ややむするマスコミにおかされやすい日常生活の中でしつかりと自分をみつめ、心の中を磨いていくような時間なもてることは、それだけでも各自にとって非常に大切なことだと思えます。

書を受取る人たちの集りへ毛筆であらうとペンであらうと、結局は美というものの追求を目指して歩いている人たち。これが書道部です。個人プレーをサークルの中に、これ自体もうばらばらにまとまりなくクラスが運営されているように考えられますが、しかし部である以上、お互いに練習し合い、わからなくなつたところを話し合い、各自の道を歩んでほしいと思います。しかしこれだけでは足りません。もちろんみんなが一階にある大きなものをやってみていくことが必要です。

これが、毎年私たち自らの手でやっている西日本高等学校揮毫大会です。この大会は毛筆ばかりか、我々には関係ないのではないか、と思う人かいるかもしれませんが、前に言ったように部員力を合

わしてやることに意義があるのです。もちろんこの大会の目標は学生書道の普及ということですがとにかく団体プレーといったものか少ない書道部にとつては価値あるものだと思います。以上いろいろなことを述べてきました。各自書道部員であることを自覚して、この四年間を送つてほしいと思います。毛筆の人々ペンの人々部の中になれば、又部の外のことまで活動していても書道という一本の柱にささえられていることを忘れないでいてほしい。

## 題なし

工学部一年 近田小二郎

福岡大学に入学してもう一ヶ月半程度になる。あの入学式の時、両親と一緒に正門に立った時に過去三年間、大学を志し希望を持つて勉強に励んだあの苦勞がや々と叶うと思ふと、何か喜しく恐しく思いました。

記念会堂に入って行くと、これまた驚きました。希望に満ちあふれた者が、一つの回まりとして

今や遅しと入学式を待つていた。それも二千、三千と二階にはまた御両親が、わしの息子はどこに居るのか。又、わだしの娘は、と目を皿の様に開いて、探している風景もあの日ばかりは、誰が見てもおかしく思わなかつただろう。それから二、三時間後、やつと終えて僕は休む暇なく下宿探しに出かけた。下宿はすぐ決まった。あまり早く決まりすぎたので両親と早く別れると思ふと寂しかった。ちゃんとしてこれから四年間、自分一人を暮すと思ふと、今までの人の気に生活してきたから一段と……。これから四年間お願しますと、言つて夕方別れた。その後急に寂しさが増した。隣の先輩が「お前、寂しかろう。わしと雑談をしよう」と言われた時は喜しかった。いろいろなこと、一時七二時話しして、夢の様が気持を眠た。

翌日から一週間ほど休講であつたが、本を買つたため、三日行つた。その時学校の構造を知るために、隅々まで見廻つた。ある時は同じ所を何回も廻つていて、自分でもおかしくなつた。それからまた一週間ほどしてクラス加入日がきた。

クラスの事はっきり知らなかつたから、先輩に  
 教えてもらった。僕は大学に入ったら、今まで出  
 来なかつた事を全部やるうと思ひ、これにしよう  
 かと迷つた。航空部、アマチュア無線、美術部、  
 と思つたが、どれもあれもないものばかりだし、  
 家の事を考えると入部する気持がしなかつた。す  
 ると隣の先輩が書道部のペンにはいつたら良いぞ  
 金も安いし、先輩が良い人ばかりだからと言れ  
 たので、一晩考えた。自分も字が乱筆であるし、  
 高校の時書道をすこしやつてゐるからと思つて、  
 入部することに決めた。最初の総会の時、パット  
 戸を聞くと、視線が教室のあちこちから集り、何  
 か僕はレンズで焼きぬかれてゐる様な感じがした。  
 現在の所、毎週行つてゐるが、やっぱり皆先輩は  
 良い人ばかりだと思つた。これから先輩にわか  
 らない事があれば相談してみようと思ひます。

幹 事

有 田 康 宏

背はおせじにも大きいとはいえないが、彼の  
 の正義感あふれる態度にはやはり幹事の風  
 格充分ともつぱら女子部員の噂さ？

☆☆☆☆

## 書道部に入部して

工学部一年 松本光明

☆☆☆☆

大学にはいつて、クラスにはいらず四年間通つ  
 のはあつけないものと感じ、字が下手で親の勧め  
 もあつて書道部毛筆部門にはいつた。ペンをやる  
 と思つたが、将来どちらが良いかと天びんにかけ  
 てみて毛筆を選んだ。なぜかと言われると返事に  
 因る。ちとも習字などというものは嫌いであつ  
 た。しいて言うならば、字がうまくなりたいと思  
 ったからである。入部したわけはもう一つある。  
 それは運動部にはいると合宿があつて夏のバイト  
 かできないことであつた。おやじのいないほかに  
 とつて、夏のバイトはかせないものである。ぞ  
 れで入つたわけであるが、書道にも合宿があると  
 聞いて困つてゐる最中である。書道部にはいつて  
 感じたことは、部員の数が多いのには驚いた。ま  
 さかと思つほどである。それにもう一つは、女子  
 部員が少ないこと。女性にとつて字が上手になり  
 たいと思つ心は、男性以上であると思つのだが。

不思議である。来年は、ちつと文柱を入部させようとして一年全員大いにはりきつてゐる次第である。このあいだ部員の名簿をもらつておどろいたことは、二年生の数が非常に多いこと。名前を覚えるのに一苦労である。一年生は、みんなで二十人近くいるが毛筆は数えると十二人であった。今練習に来てゐるのは、五、六人しかいないのが残念である。早くみんなと友達になりたいものである。自分と一緒に入部した人たちは、みんな何年か経験のある人ばかりで少しひげめを感じるが、自分は百分なりに努力して早くその人たちに追いつくように一生懸命がんばつて、家庭の事情をやめることになるかもしれないが、そのようなことにはならないように努め、四年間無事にクラスの生活を過ごしたい。まだ入部して少ししかたはないので何もわからないが、早く部にとけこんでチームメンバーノゴツテリ組んでやってゆきたいと思ひます。よろしくおねがいします。

副幹事

中島 勝 吾

点々く実行派、不言実行という言葉は彼の  
 名にあるようなもの。

## 書道部への入部

工学部1年 兼王 幸俊

私が書道部へ入つたのはなぜかという事について二、三述べたいと思ひます。実はこれは私の書道に対する考えとなるかもしれせん。まず書道部へ入つたのはまず良い作品を見たいと思つたからです。先輩には怒られるかもしれませんが、なにも書を練習してリッパな書家になるうとも、又うまくなりたく入つ

たのでもないのです。でもやっぱり心のすみには四年間のうちには一度位は自分の作品というものを書きたいと思つてゐます。それと良き先輩と交つて見たいと思つたからです。それに理由にはならないかも知れませんが、工学部では練習も充分には出来ないでしょう。でも私は書の良き悪さがまだ本當にわかりません。又今は昔の様な作品でなく何か字をその字でないようになるまでくすしたりして、何かもう絵に近い絵に吸収されそうになつてゐます。なるほど紙、きれ、筆を使う所など絵とほとんど同じであり、又目的がある。つ美の探発しというところまで同じであります。



本日に今の書というものは絵に近くなっています。特に墨絵的になつてきています。その絵にない一つの重要な一面を持っています。それは一回ぎりぎりで手直しがきかないことです。絵だつたら作品の修正がききます。でも書ではどういきません。一つ悪い所があつたら、又書かなければならないのです。すなわち一ぱつ勝負なのです。でもこの一ぱつ勝負相当な練習がないと出来ない。一発勝負なのです。ここに私が土木科に入った意味と書道部に入った意味があるのです。すなわち、今は事務的な仕事ばかりで外で男らしく走りまわつてする仕事は少なくなつています。本当に土木位だろうと思ひます。それと書道の男らしい一発勝負であると思つたからなのです。だから私は書道部を選んだのです。それにもう一つ体育部に入れなかつたからです。

副 庶 務

原 博 幸

たくましい体と無精ひげ、重カラ調を地で行く、骨のある書道部のホース

## 書道部へ入部するにあたって

高学部二年 工藤 清一

入學當時先輩のかんろくある姿をあこかれの気持ちで見えていたが、もう一年と数ヶ月がすぎた。この両色々の名作と呼ばれる本ぐらいはと思ひ、読書又は知識を吸収する目標を立てたが、目標を実行していかない自分がみじめに思えてなりません。目標々実行できないことを痛感している今自分に對してはあまい、ほんとうに意志の弱い自分を反省しています。これはのんびりした学生時代だからこそ、現実に満足した、そして何の社会からの圧迫もないから、弱い意志が芽はえやすいのだと思ひます。きびしい社会にあっては実行力が養はわれていなければ、何の価値もないと思ひます。のんびりした学生時代を有意義に過ごすには、計画、実行の精神が必要であり、又、先輩からのより多くの豊富な知識を吸収することが必要だと思ひます。マススロ教育における学校においては、クラブに属せずには先輩からの知識の吸収および良き友人の獲得は、ほとんど不可能だと思

います。この書道部（ペン部門）は一見して地味な感じを持って居る様にみえるが、その中に居る人々皆人な明るい（感じの良い）人なので、クラブ全体が明るく親しみやすいので、毎日が楽しくなっています。この暇の多き学生時代に、このクラブにおいて先輩に色々とお指導をしていただき、これは誠に有難い事だと感謝しています。自分も先輩の様な人を目指して、軽々な態度をつつしみ、よく熟慮した上で、何事もきばきと行動に移せる様な実行力をつけ、又、このクラスにおいて、私は私なりに今後の向上を目ざし、私の可能性をきりひらいていきたいと考えています。

## 下宿生活と入部

経済学部一年 渡海 昭宏

長崎から福岡へやって来て、下宿生活が早くも一月過ぎ去った。高校時代、友人から下宿しているのを見て下宿をしてみたいなあと思つたことがあつた。なぜなら、自分に干渉する者がないし、思いのまま行動できるからだ。しかし、今、下宿

生活を始めてみてさう思いどうりにいかないと痛感している。第一に食事時間がだいたい決まつて居るので、その時節には帰つてなければならぬ。第二に自分の身の回りのことをいろいろ処置しなければならぬ。第三に定まつた送金によりお金のやりくりをしなければならぬ。その他、始めて下宿生活をしてみて小さい苦労いろいろあるようだ。現在下宿は福大裏の池のそばにあり通学に便利で環境の良い所である。前に述べたような苦労はあるが楽しくくらくらしている。下宿生活だと自宅生活よりも暇があるようだ。その暇を学校生活において有意義に過ごさうと好きなクラブ（書道部）に入部したわけだ。入部する時毛筆、硬筆共、練習してみたがどちらか一つということであつたので、あえてまだしたことのないペン習字をすることにした。入部後、また一ヶ月にもならないので新入部員はむしろ人語先輩の名前をわずかしが覚えていない。これから少しづつ覚えてゆく親しくなりたいと思つて居る。ペン習字は始めてなのに全国総合書芸展へ出品する作品を書けと言われた時は不安であつた。

よき友人の獲得は、ほとんどの不可能だと思

深層日に先輩からみてしらいホインクでたくさん訂正され不安が募るばかりであつた、しかし、訂正されることにより上達するのだと思ひ、作品に精を出している、出品して結果がどうであれ、少しづつの進歩があればよいと考えている。

## 初日

商学部一年 前崎 恒春

僕は四月二十八日の四時十分の総会出席の為に学術会館の二階に有る書道部の部室へ入ろうとしている。中からは何の音も聞こえない、ただシンとしてゐる。その静けさに僕は入りぞびれた。でもホサンと立っていてし仕方がないので思い切つてドアを押して中へ入った。すると二十くらい分煙がこつちを向く、「こいつ誰だ」といつた様だ感した。四、五人はトランプをしていてあの人はそれを傍観したり本を読んだりしていた。僕は何か挨拶しようと思つたが緊張していて言葉が出なかつた。その場へ立っていると一人の人が座わる様にと椅子をすゝめてくれた。その椅子に

腰掛けて部屋中をシロシロ見廻した。その時り印象は「狭くてゴミゴミしているな」と思つた。それから一時の廊下を伺いて「誰か話しかけてこないかな」と思つていた。するとみんなどは「総会へ行こうか」といつた外へ出て行きだしたので僕は後についていつた。それまで僕は総会はつまみり部室であるものと思つていた。総会の会場は二三号室、中へ入つて見ると黒板に「書道部第一回総会」と書いてある、部屋に入つて一番前の席へ座つた。出席者数は三十人程度であつた。まず始めに各役員の紹介があつた。その時役員の方を見ての印象は「みんなおとなしそうな人達だな」と感じた。それから自己紹介、これはおきまりの事で名前と出身高名それに趣味を述べる、僕はこういつた。「エー僕は前崎恒春と申します。出身校は筑紫中央です、趣味は登山とその他スポーツは何も、どうもよろしくお願ひします」とこんな調子、僕はこんな時「漫才が出来ればな」とつくづく思つた、この時の自己紹介を印象に残つた人は誰かいなかった。自己紹介がすむと幹事さんの話しがあつた。それから他に二、三人の人の話し

るあった。最後に幹事さんが「初練習は五月二日に有る。みんなさぼらない様に」といわれて今日の総会は終りであった。

## ある誤算

三順之内の竹年ノ部法学

大学に入學したう何かクラスに入部して、活躍してみたいというのが僕の夢だった。父は剣道をやれという……しかし僕は父の意に従わず、又部員の人から勧誘されることもなく自ら書道部へ入部した。今迄先生について練習した訳でもなく、又好きはわけでもないのに——。新入生を盛んに勧誘している諸々のクラス、そのどれもが僕に適したものの様には思えなかった。ただ書道部と法律研究部だけが心に残った。福大に来る人で過去に書道をやっていた人にもまさか居るまい。失礼だが皆下手だろうか？ たた筆で紙に字を書くだけだからそんなにたいした事はあるまい、と今思うと何とあさはかな男であらうと、我身がうらめしい位の甘い考えを持っておりました。練習場の日本間を先輩達が目色を交えて必死に筆を動かす様子を見て驚き、そして

その字のうまい手にはびっくりしました。自分がか書いた作品を見て自分なりにうまく書けたと思つても、人のと比べると、まるで月と何とかとやう。その言葉はまるで僕の為にあるようなものです。同じ一年生の人でも先生からもう行書を書っているのに、まだ僕だけは平仮名……なんと情無い華か、嘆かわしい。下手な我身がうらめしい。「下手も多く撃てば当る」の様に、いつかは一人前になる日もあるだろうと、その日の為にも、毎練習日はうまい人達に囲まれて、練習している今の状態です。早くその日が来ないかなあ——。

## 一年間の収穫

法学部二年 末宗 空太郎

私が大学に入學し、書道部に入部してから早や一年という月日が過ぎた今日、第一に思うことは、本当に書道部に入部してよかったと云うことです。入部した当時は、何となく堅苦しい感じもいたしましたが、今日に至っては何とも感じません。慣れた為でしょうか、それとも「書道」と

云う。その言葉はいくらか私なりに解釈してはいるが、こしよつか。私はつい今年の始めごろまでは、台道部といつやめよつか、いつにしようかと、あゝふやな気持ちでいたのに今日に至っては、とうしくやめよう等と思つたりしたのか、その原因が何であつたかはよくわかりませんが、書道の九つ「静」という言葉の意味に反感を感じていたのでかもしれません。一年過ぎた現在、書道部員とも親しく話すよつになり、今まごとは違つた、通り一途の友人としてではなく、合宿、コンパ、ピクニック等々、古い言葉で云えば、同じ釜のメシを食つた仲間として、私が今日まで求めていた、いやー生れめ饒けるだろ、真の友が出来るか、知れません、さう思うと、これから卒業までの学校生活いや部活動に、より一層興味をおぼえます。さて、私自身ペン習字部門である以上、ペン習字について私なりに感じた事を述べますに、昨年一年間、使用したノートを用いてみますと、ページをめくるたび、字の形が異つており、昨年一年間「多」というものに大変迷つていたのが一目瞭然としてわかります。現に今日に至つてもまだいくらか迷つ

てはいますが……。一年間ペン字を練習し私が得た事としては、あたりまえのことではあるのさるか、そのあたりまえか、どうにかあたりまえとして、私にわかり始めた今日近頃ですが……

第一に、自分のくせ字をなくす為にも基礎に従つて

第二に、一字一字、ゆつくり丁寧に  
第三に、字の形の調和を考へること

この三つのことが私がこの一年間ペン習字をしてどうにか理解出来るようになったことです。この事は我々の勉強にも相通する所でありませんが、ついで遊びの方に……。まことにイカンに存じます、いや書道にもどりましたようや、いやはやもうねむくて、ねむくて……。

### 副幹事（ペン） 宮原邦生

彼のモニターは展覧会に良い成績をおさめた。なおかつ、談も出来る部員をつくることとか、しかし、紅一点の副田さんは、余りに叱刺が強いので練習を休んでいるとか？



# 女子部員の積極性

商学部二年 海尾千代子



入部して早や一年が過ぎた。近頃練習の時、ふと寂をあげて新入部員が真剣に書に何っているのを見る時、二年となつてなんだかくすくすとい感と同時に頑張らなくてはという気持が交互する。一年間、クラブ活動での自分を振り返って見る時、なんだか夢中でついできた様な感を抱く。最初の練習の時、友達と日本武道場をちらつとのさいた時、実際のところそのまゝ練習せずに逃げて帰ろうかと思つた。女性が一人心いなのである。福大特有のものではあるが……。なんかのまぢかいかしうと思つた程である。皆んな同じ様な男性が大勢、各々のスペースをとりきちんと並んで書に向つていた。戸のところまで友達とどちらが先に入るかを争っている。一人の先輩かめぞとく見つけて早く練習する様にとつななした。二人とも不安でトキ／＼しなかり半ば、あきらめの念をいって指持されたところへ座つた。今ではほんとに無我

夢中で何を書いたか忘れてしまつたのだか墨をすつて二、三枚書いていると、目のとてし大さはスラツとした女性が入つて来た。先輩かなと期待したのにもかかわらず、後から同じ新入部員だといふことが分つた。結局、毛筆部門の女性の先輩はいなかつたわけである。それほど先輩がいわれる。如くこの書道部は女子部員が育たないところだといふのである。その原因は色々あるだろうが、クラブ丙での女子部員の存在を考えると見る時、私自身にも大いにあるのだけれど、余りに女性特有の非積極性かわざわいしているのではないかと思ふのである。クラブ活動をスムーズに進めて行く為にはある程度自分が一人の女性であることを忘れて単なる一人の部員として、クラブの発展を常に思いながら自分を練つていくという方法をとるより他にないのではあるまいか。一人の部員としてそれ相当の行動をし、部員総会やクルースで話し合う時などに自分の考えていることをあからさまに言うべきだと思ふのである。こんなこと言つたら女のくせになまいきだなんていわれやしないかしらなと考えず、言うべきことを言うべき時に

には、ミリと意見を述べるべきなのがある。肝心の時、きかないで後でゴソク／＼言つのは、又の子の最も悪い悪本みだりに思われているのし女の子は非積極的であるという見方から忝ているのでは無いだろうか。この一年間、私はとにかく夢中でついできた。最初の二、三ヶ月とてし悩んだ頃があった。とてモウラフ活動がいやな時があった。女子部員かともいやな時、それは又の子一人を練習する時である。話す相手が居ない時程悲しい時は多い。自分の口からは声というものがこれから先出るのだろうか、と錯覚する程、一言ししゃべらなかつた時があった。しかし時が経つにつれて男子部員とも少しづつ話せる様になり、二人の女子部員とも事ある毎に件よし阿なになつていった。夏季合宿はともおもしろかつた。三人で私の下宿の三畳の部屋で夜遅く迄、あれやこれや次から次へと語りあかした。次の日は目を赤くして書に何つたけれど三人とも一構かまわず書き、しゃべり、笑いころげていた。どうしてもつと早くこんな愉快な気持になれなかつたのだろうと思つた時、自分も余りにも自分のカラにとびこもつて消

極的であつたということがひしくと分るのである。女子部員に積極性が欲しいといふのは行動面だけではなく凡ゆる面に積極性が欲しいのである。本系の学生としての積極性、書を学ぶ積極性、書道部員としての積極性、等、こうしてあげれば数かきりはない。……大げさに考えればこうである。大げさに考えなければ、急かす、かつたりと気軽にしようだんで人を知るのに似てはいないだろうか。男子部員に欲するところは女子が少いからといって特別待遇はやめてもらいたい、役員も女子だからといって甘くしないでもらいたい、どん／＼使つて欲しい。大げさに考えなくして一人の部員として扱ってもらいたい。こんなことが女子部員の願いなのではないかと思ふ。

今年も女子部員は一人である。一人でも負けずにかんばつて欲しい。何でも相談して欲しいと思ふ。そして来年は一人でも多く女子部員を募りたいものである。

福大書道部に女子部員が消滅しない様に！！



# 福岡学生書道連盟と福岡大学書道部

福書連事務局次長

法学部二年 平井晴彦

福書連が結成されたのは、今から六年ほど前に  
なる。結成の中心となったのは、とりもなおさず  
福大書道部である。昨年までは、福岡教育大学も  
加盟していたが、ある事情で退盟はしたが、本年  
度より私立筑紫文学園短期大学が加盟しました。  
加盟校がますます一見本当に発展している様に思え  
るか、解釈の仕方によると疑わしい処もある。こ  
の事は後回しにして現在の活動状態をのべてみよ  
う。

書道部毛筆部門に入ると自動的に、福書連に加  
入し連盟員となる。我書道部は、二部制度で、一  
部は校内役員他の一部は対外役員を設けている。  
連盟組織は、諮問機関的な運営委員会と、行動家  
の集まりである事務局がある。任期は共に一年で  
あるが、事務局員を一年程怪験した後で、運営委  
員になるケースが多い。クラスの役員より七、連  
盟の役員の方が、日展特選級又は、日展審査員級

の人に接する機会を多くもつ争か出来るのは確  
ある。その為にも福大書道部が連盟役員を選出す  
る時は、最も適した人格者を選ばなければいけな  
いのである。年度の行事は、春秋二回の運営委員  
会総会によって決定され、事務局が中心となって  
行事を遂行していくのである。運営費は、部員の  
方々から徴収している連盟費貳百円と、タンスパ  
ーテイの純利益によつてまかなわれています。  
現状の段階では運営資金は少なく、四苦八苦して  
います。こういうのは、しつと考えていい事は、  
私としては、今まで先輩連がやってこられた方法  
に少し欠陥があると思うのです。なにせ私は次  
長でありますので最高の権限はありません。役員  
改選は、秋期運営委員会総会でなされます。選任  
された新事務局員の仕事は、機関誌発行という、  
唯一の通信網を造る事です。発行について一番頭  
を悩ますのが広告取付です。神聖なる書道機関誌  
に、商業的なものは感心しませんが資金も決まっ  
ているのだからありませぬ。本文は年々良  
なり我々が、他大学生の意見を卒直に知る事が出  
来るものとして又かす筆のいきなりものです。続



て行つのか。ダンスパーティーです。この行事は、何年か前か、役員の間にも賛否両論があり、金獲得の爲の手段としてやむをえなく行つてまいりました。ダンスパーティーを行うのは、例年一月に於てあり、規則の厳しさからぬけきれないが、内容は、実に紳士的なものであります。書道とダンスパーティーとは、直接には何等関係は有りませんが、連盟員が十分に活動できるような行つていきます。みなさんの爲に行つていられるのです。連盟費を五百円程度に値上し、確実に入してもらえば、ダンスパーティーを中止しても連盟に支障をきたすような事はないと思ひます。しかし現在のままでは、行つた他はありませぬ。繞いて親睦会があります。これは、連盟委員の主催で、春期は、ソフトボール大会、秋期は、ピクニックです。みなさんは、若人ですから大いに参加して親睦を深めて下さい。繞いて行なわれるのに、練成会があります。連盟展と並んで最も大きい行事の一つです。例年三泊四日の予定で行なわれます。練成会もダンスパーティー同様、論議されている問

題です。練成会というものは、そもそも練成であり、厳肅にかつ厳しくやるのがたてまえです。それにもかゝらず練習中には、無駄話をする人は多いし、最終日に演芸会までやり、練成の爲の練習はなにもなされてはいない。結成当時は、今までの様な連盟のやり方に満足したのであるが、現在の下級生は、書道による厳肅さを欲してあり、五年六年も前のやり方を受けつぐのは問題となつてきました。規約には、親睦というのも記載はされてはいますが、書道向上というのも忘れてはいけません。練成会を練成たらしめてこそ年に二回の親睦会というのが、有効になるのではないかと思ひます。書道の成果として、書道祭展の場として重要なのは連盟展であります。過去一年間の練習の発表の場として各人に影響を与えてまいりました。年々作品も充実してきました。參觀者も多くなり、又各系統の書家の先生方にも来ていただけようになりました。これは、各大学の部員の方々のおかげであり、役員一同、頭が下る思ひです。今年も力いっぱい書かれた作品を出品して下さい。様お願いいたします。さていろいろ行事毎に説明して

さましたが、最初に述べている様に名実共に発展していかとうと、いちがいにはいえぬ。役員は行事に追われ、部員から不服が出れば頭を悩ます。これで伝統ができよきと、か、発展の段階にあるといえるだろうか。PRしなれば部員がついてはこない。これでいいだろうか。もつと根本的な事を考えなければいけないのではないだろうか。現在の運営の仕方が、五、六年前そのまま適用され、親睦というのにあまりにもこだわらずにいる。ここで親睦についてちよつと述べてみよう。私にいわせるならば、親睦は遊びとは違ふという事である。書道をする者の本当の親睦は、展示会等で、自分の作品の批評を聞いたリ、言つたりして有好を深めてこそ真の親睦はあるのに、親睦とは「ダンスパーティーやフォークダンス、茶話会」等からしか生まれないと思つている者が多いのには少しあきれれる。書道をする者の親睦は、書夜の向上をはかり、批評し合ひ、討論しあつてこそ本当の親睦があると思ふ。また書道をやるとは、そういう風に心がけるのが当然だと思ふ。次に私が各大学を訪問しての評価をしてみ

よう。加盟こそしてないが、福岡教育大学特設書道科と福大書道部は、近年互角の勝負をしてきた。これから互角の力をもつて戦ふ事は、実に基礎ウ・教育大の卒業生を見て感じた事は、実に基礎はしっかりやつていと思ひました。しかし福大生とて階書を書けば天下一品負けはしません。教育大卒業生に、字をくずした行書体がなかつたのは残念に思ひました。福大生は行書体も実力者は多いし、ただ理論を少し負ける程度でしょう。西南大学は、打倒福大を目指し近年益々実力をつけてまいりました。大坪流の独特の理論は、知つておいても損にはならないでしょう。九大も西南大同様実力をつけてきました。他の加盟大学も打倒福大を目指し頑張つています。我々も仲間としておる訳にはいきません。福大書道部は目標とされていきます。このように我書道部は、常に中心的存在で重要な役割をはたしているのですから部員の方々は、誇りをもちつて行動して下さい。二年生以上の方で連盟について批判される事はかまいませんが、「好かん」では意見になりません。ただ単なるヤジにすぎません。批判する事を自分の意見

しして、ち 最低三分間は話せなければ、私は意  
をこして聞き入れません。不服のある人は、いか  
なる場合でも堂々と発表して下さい。私は自分の  
考えと違っている考えをもっている人か好きです。  
一年生は、二年生のコセくしたところなんか、  
まぬないで下さい。書道部の発展は連盟の発展に  
つながります。みんな頑張ってください。

## 福岡学生ペン習字研究会の発展性

福ヤソ会長

経済学部三年 木村 英良

私はこの一年間福岡学生ペン習字研究会の会長  
に選ばれた事に大きな希望とかつ大きな責任を感  
じています。昨年は天神ビルにおいて立派な研究  
会展がもよおされました。前会長籠光筆ならびに  
各役員の積極的な行動は敬服にたえません。まだ  
就任したばかりなのに弱気はいりませんが、果し  
て昨年の様に立派にやれるかどうか心配です。と  
にかくどんな事があるうとも研究会展だけは実行  
いたしていききたいと願っている次第です。さて研究

会の発展の方向ですが、その前に現状の説明をい  
たしますと、今非常に転期に立っているのが実状  
です。発足当時より二年、そろそろ研究会もだら  
けている様子です。これは会長以下役員のせいよ  
りも会員全体の責任と思います。いくら役員が声  
を大にして会員に呼びかけても会員の自覚がない  
かぎりそれも無駄になつてしまいます。ここぞ人  
間を批評するのはどうかと思います。役が与  
えられた人と、与えられなかつた人との自覚はら  
びに行動は大きな差があらわれる様に思われます。  
（私の経験で実証済みです） 話を変な方へそれ  
ましたが、つまり会員の心をとらえる事がどんな  
に難かしいかが今の実状ですし、又それが解決さ  
れた時が研究会の発展が約束される時と思います。  
大まかな研究会の発展の方向はそれとして、小さ  
な問題つまり具体的な問題は現在各大学にはペン  
の愛好会すらないこと。募集に際して各大学へお  
しむいてのパンフレットや公示に非常に手続がき  
びしい事。これらの二つが研究会の発展にストッ  
プをかけてるのが痛い。しかしこれとても愛好会  
が出来れば、その他の雑多な問題も解決される事  
と思えます。愛好会はそう早急に出来るとは

考えてません。そんな雰囲気まで研究会をカンテリかだめるほかありません。ペン習字は最近になつて大びらに人々に認められてきたものゝ、毛筆とは一長一短の特徴があります。しかし毛筆とは違つてこれでも初めでも結構やれるし、手軽で実用性がある。大衆性がある。だからやり方によつてはバタバタ会員が集まるかもしれませぬ。これ七研究会の発展方向に課せられた問題です。とにかくこの一年前私自身の力をためして見たいと思ひます。またこんな事を言うのは早いのですがとれだけ自分に身についたかをはかつてみるのも一つの目標です。とにかく研究会の発展は暗い面よりもむしろ明るい面が多いと言ふこと。そして研究会がペン会員相互の楽しい会になるにはやはり長期化せざるをえないと言ふ事をつけ加えます。

会 計

近 藤 敏 則

銭と名がつく筈に俺の名前が出ないことはないと自負している まじめ人間の典型

ペン軸と黒インク

経済学部三年 宮原邦生

書しよをかく口のいや正しくは口字をかく口と、言ふべきかも知れない。とにかく書道部と言ふものは形を形成し視覚を対象とするものであるから、造形芸術ということができる。字を書くということとは古代にしろ、現代にしろ人前の心の内に浮ぶ感情を外にあらわすということに変わりはなく、書をかく人の気持ち、それに臨んだ時には同じ物を求める以外には何物もないであらう。心の内の感情を表わすには動依、又は彫刻、絵画など芸術的なものを表わす事ができる。だが故人が和歌わがや詩をよく愛したという事はそれを表わすために書をもよくしたと云う事に何かどこに大きな連がりを感じる事が出来よう。自分のある種の感情を文字によつて表わす、そのために書をよくするということが書の求める所だと思ふ。今日こんにち、ペン習字ということの急遽に発展してきたが、これはペンの大なる実用性と云う面においてである。

筆尖、手紙、多種の証書にしても全てペン書きである。実用面で生活のなかへとけ込み、生活の中で鍛えられているからこそ、その価値があり発展のゆえもあるであろうが、ただペンをそれだけのものにするのはこの急速なる発展もやがては行きつまってしまふだろう。つまりペンの書としての芸術性である。なるほどペンと毛筆はかく物にしる、かき方にしる全然異なるかも知れぬが、一つの書という芸術においては根本的に求めるものの違いはないと思ふのである。ペン字の始まりは古代のエジプト、メソポタミア、アッシリアというような太古の時代に兼えた文明国の中に装飾的な絵画的象形文字が始まりであるといえる。いわゆる岩石や粘土板に先のがつたキリのようなもので彫りつけたわけであるが、これの硬筆の物がペンの性格を持つものとなり、軟筆のものが毛筆の起源となつたものだと考えられている。今日のペンの急速な普及は今から四十数年前からのことである。その基礎も微々たるものであるが、簡単に使用することができ、割合時間、手数をかけなくとも書けるし、実用的で、親しみやすいという点だ

らう。しかしこの利点は同時にとつてきやすいかあきやすいと言う最も大きな欠点でもある。つまりペンとはまだ、芸術性と云うものがない。うねだけではなくして心からペンの魅力にとりつかれると云うことが少ないせいである。このためにはペンの美しい線、立派な線、つまりすつきりとした明快な線が要求される。速度の加減、速度と線のせり、またペンの適度の圧力なども研究し、リズム強弱などといま、ペンによる芸術性を大いに高め、単なる実用性から脱皮し、芸術性を持つペンへと発展してゆきたい。ここに芸術というけれど、我々の現代段階ではこれかどうである、と簡単にわかる訳にはゆかない。しかしその芸術性にほんの少しのむいから近づくと、我々の努力次第で可能ならしめるであろう。そのために、まず基礎をみっちりやり、日頃のたゆまぬ練習にしか、その過程を見い出す事は出来ぬであろう。

実用面から芸術性へ、これが我々の求めるものではなからうか。

# 春におもふこと

商学部二年 徳久 政機

(一)

自然に生まれ、自然に育ち、自然を愛し、そしてこの神秘的だとも言える自然の恩恵を受けながら、次第に自己を形成して行く、この事、まことに思われたる事ではないか。人生すべてこのバラエティーに富んだ季節の様なものである。この変化に富んだ自然こそ、他に類をみない最高のものではあるまいか。自然界に人間として生まれた事、それだけでも至上の幸福であると考へざるをえない。柳は緑、花は紅い、頃はまさに新緑靡ゆる五月中は、毎年季節は繰りかえされるものだけだ。今年の様は緑の目にしみる年はかつてなかった。いつもの事であるが季節によつて肌を感じられる風の感触はそれと違つて来る。そしてその感触にふれた時、自然と過去の同じ頃の季節を想ひ出すものである。特に印象的な事があった頃の風の肌さわりと言うものは、その時の出来事

をまさしく、といかにも昨日あったかの様に身近に感じ取る事が出来、再び想いおこさせてくれるのだ。だから人にとつて風は過去の色々な想ひ出を思い出させてくれる手段であり、又、記憶再現法の一つだとも言える。風が過去の記憶を呼びよせ、とすなへて事は、いかに口マンチックな感がある。人間は元来口マンチックなるものを求める。芸術の発展もその人間性から出たものの一つである。まがりなりに芸術と言ふものの一翳の露に濡れたならば、その感触は終生忘れられないものではあるまいか。社会が如何様な形や方向を示したとしても、芸術の進歩をばむ事は出来ない。いかに押しつぶされても、芸術の芽をつみ取られず絶える事は無い。芸の道に入りその道を極め、尽す途上に於て、芸術なるものの魅力に取り憑かれた者にとつて、それから脱け出すことは出来なうである。手段は違つていても、芸の道を歩む者にとつて、本道は一つなるものである。だから、その一つを根として植えつけられたならば、その味を知ったならば、暇と資金のゆるす範囲内に於て求める気持は変わらない。深く掘り下げても

たなうば行かか出て来る。結果の良し悪しな問題ではない。その過程に於ての味わいが何とも言えなかりてはあるまいか。結晶なるものの味わいもあるかゆえに、その芸に打ち込める気持がわくのかも知れない。どちらにしても、自分の力で作り出したものは、他のあらゆるものより勝る。精神と汗の結晶であり、他のいかなる高価なものよりも愛着と誇りとを感じ取り、いずれは、精神的な愛と自信とに変つていくであらう。人間一生涯の内、ただ自己を否定し尽して生きて行く事は出来ない。さらにと輝りつける現代社会と言う砂漠の中で何の反感もなしに自分の欲望も見崇め体裁もすてて生活することは無意味な事であるし、たとえ確固たる信念が有つたとしても、我々には納得はいかない。だからその様な人は余程の偉人かもしれないし奇人かも知れない。我々は社会に順応し尽くしてはならない。いやが上にもある社会に生まれ育つたからにはその社会の型にはめ込まれてしまふのである。か、その社会の奴隷になつてしまつたのでは何の為に生きながらえているのかわからないであらう。ただ平々凡々と一日一

日をすごしているのでは何の価値もない。或る特定の人が創つた社会に甘んじて、生活させてもらつていると考えるがちなものであるけれども、實際どう考えるべきではないのではないか。社会は我々一人一人が創造すべきものではないのか。祖先が血と汗と涙とで全力を尽して我々にゆすつた社会ではないか、その社会をより一層住みよいものにする為に、過去の同輩を裏切る様な行為をしない為に、我々の出来る限りのことを精一ぱいかすべきなのである。我々の文化は人間の勇気とたゆまざる努力によつてここまで進歩して来た。ここまです文化が發展することには長い月日と多くの犠牲が払われて来た。して人間本来の理想を夢みて押し進められて来た文化は、時として協進にされる事もあつたらうし、社会の変動によつて発展の芽をつまれ、ゆがんだ文化と変りはつた事もあつたであらう、又正政に利用されて来た事もあつたらう。ここで言つてゐる文化とはすなわち芸術の事、いついかなる時でも我々人間にとつて、心のオアシスとしての肝要な役割をはたしてく来るこの芸の道、この芸の道こそ心のささえであり、大

然にとつて明日をつくりだすエネルギーなのである。人間 すなわち、心の砂漠だけにば長く住みつく事は出来ないのである。何しなかつたならば何かを見つけ、その事についてと深く知ろうとする気持、この気持があつてこそ、芸術の発展性があるし、温厚なる人間の成長の爲に一役買けもつのである。これから先の発展も約束される事ではないだろうか。「しつと知りたいたい」この精神こそ現代の若人にとつて欠くべからざる要素なのだ。現代は全般的な点に於て過去の何時の時代よりも、自由にその事を考え、発言出来、自由に研究出来る。してこの自由を利用し活用しやすい社会の様に思われる。だからこの思まれ環境を精いつばい黒水まわつてみてはどうだろうか。多少は羽目をはずす様な無茶な時もあるかしれない。だがそれも夢多き若人にとつて、芸をつきとめる過程に於ての摩擦だと考えた時、自他共にゆるせる事ではないだろうか。この過激なる探求心かあつてこそ其の発展性がかかえる。真なる芸の発展性は真なる人間の性の創造を意味するものではないだろうか。

## (二)

大学生活を営む上に於て、何を目的とし、どの様な手段をもって、歩んで行くかは、我々学生にかせられたる大きな責任と義務であるかの様に感ぜられる。何事もよろしい、自分の健全なる精神を作りあげる上に於て、フランスになるとみなされるものであるならば、しかしマイナスなる面もあつた所で、それを一つの良き暗示だとして、よりいっそうの飛躍をとげんが為のものとして、正なる方向へ移行することが出来さえすれば、やはりマイナスもプラスへの道を示唆してくるものと言える。負なる面すなわち自分で「恥らい」であると感じた面、そのところにも、もはや進歩の芽がのさいていゝのではないだろうか。だから或る立場での一つの考え方として、負の数なんでもものは正に導かれる数、すなわち、いかに上手に負の数を利用するかは問題になつてくるのではあるまいか。我々大学生活を押し進めて行くにつれて数しれない難問が所かまわず降りかかつてくる。だが負けてはいられない。いかに悪の神にとりつかれようとも全身に力をこめ、精神を集中して、振り



込さなければならぬ。我々には可能なる事の方向が多いのだ。何でもよるしい。そうた何でも良いのである。我々が精神生活の糧となりうるものがありさえすれば。何でも食いつぶす事が出来るだけの若い闘志があり、エネルギーが有るのではないか。素材になりうるのは無数ある。しかし限られず環境で、一定期間中に多くを成しとげる事は不可能な話であるし、又その必要性は出てこない。さすれば、何をやればよいのか、人それぞれ顔形か違つと同じ様に、考え方も違つし、感興の質も度合も異なる。自分に一番合ったもの直したものを真剣に考えると、そうやすやすあたりどころがっているものではない。だが若人にとつて、大学という天下の楽園にも似た、すばらしい境遇で捜し当てることはそう困難な事ではない。盲でもよるしい、手さぐりで可能だ。自分の手で体で「これだ」とばかり感じ取れるものがあつたならば、理屈ぬきに感じられるならば、これ以上のものはないし、他のいかなるものより自分に合つてると信じる方が得策だと思ふ。そう考えた結果、書道に志ざし、この道を通じて、出来る限ぎりのもの

のを学び取りたいものだと思つた。どこの山かつ運び込まれたか知らない粗末な石であつたとしても、リッパな石になるべく磨き上げられたいものだ。磨き上げたものだ。そう言えば、部生活はなめてあらゆる形やかっこうをした石の集まりの様な気がする。すると、さしすめ部屋は石を洗う桶と言つたところだろう。あの狭い部屋でもまれ／＼と角が落ち、つやがでて来る。洗剤や水がなくなつたならば、先に桶を出られた先輩達や先生方が準備して下ださる様に思われくる。我々が入部した時、上級生はとうしやうもない石が転がりこんで来た事だろうと思われたかも知れない。ただ部に籍の有るのみでは何の役にも立ちはない。或る精神的、心理的な自分でも掴みよふのない、どう言う方向から槍をつき当てたらよいかまつたくわからない様な物体に精神文化、精神芸術の一つである書道をもつて心の塵をはらいのけ、すかくし純粋なる気持で把握する事が出来る為に、書道は精神的な剣となり、又あらゆる困難を受けて立てるだけの楯となりうるに充分な精神活動だ。何もしなくて、何の抵抗も矛盾も感じない様な生活では進歩発展が

ない。人それぞれ自分なりの生活の場と言ふものがある。その時と場とを最大限に活用し、個人の力を持てる限り出し尽してみたいならば、その結果としてどの様な陳腐なるものか出来上がったとしても、又他人がどの様な受け取り方をしようとしても、又他人がどの様な受け取り方をしようとしても、上価値あるものはないのではあるまいか。要するに一つの事を心ゆくまで極めていってこそ眞の価値が出て来るものであり、中途半端で終る様な手かあつてはなんにもだらないのである。何も手を付けなくてほおつて置くより、或るものをいじくり、こね廻している内に何らかの手ざわりが有るものである。そのものを機会よく、亦、こりと掴みとりなくてはならない。だが何となくこね廻しているよりも、一生懸命精神を集中して成す方が何らかのものを掴むのに早いのではあるまいか。だから或る一定の場と目標が定まつたならば、それに対する策と言ふものを考えなくてはならない。最初からそれに対する絶対なる策は浮かんで来はしない。もし他人から教えられても即座に納得の行くものではないだろう。だからとむかく自分で

じかにやつて見ることに、体で感じてみることに必要となってくる。それから案をねつてみる方が賢明ではないだろうか。その事から色々な問題なり疑問なり出て来ようし、解決の方法も生れてくるものだと思ふ。だがある程度の方が流れた頃になると、一見解決出来やすいと思つていたものが以外と難問であつたり、初期に於ての難問も月日の過ぎるにつれて常識程度のしるものになつてくるのである。その仕事の種類内容に対する能力は差し置いて、ある一定の成績をおさめるだけの実力があり、人を尊いてくれるだけの力量を持ち合わせの人は、やはり難行苦行に打ち勝つた結果の勝利であると思ふ。好き嫌いの大小は過大視して、俗に世に言う、天分能力を大きくひろいあげるわけにはいかないし、特にその事については、精神的なるものを往とするうえに於て問題外との態度を取るべきだ。自分のハインディーを克服する為の努力をはらつてこそ、事は成立するものがあると思ふ。だから我々は出来る限りに於てベストを尽せばそれで十分である。人は一旦火の車になつて努力したならば、かなり

の成績か成てるはずである。それこそ血と涙と汗の結晶であり、他人に引け目を感ずる様なものではないことは自分が知つてゐるし満足も出来るものであるはずだ。「身をすててこそ浮かぶ瀬もあれ」と言ふ事がある。人それそれ或るものを究明するにあつて、多かれ少なかれ自分でどうしようもない大きな問題、すなわち大きな深い沼に差しかゝるものである。その沼にはまつてしまつたなうは身動きは出来ない。その場合その場に於ていくつしかいてもあかいてもだめだと言ふ事を示しているのだらう。その場合賢明なる考えとしてその場の成り行きに我が身を託すなり、考えの立場を変えざるなり、一度は現在の状態から離れ、気持ちを客観的なるものにしたらならば、そこから新しいものなり、着実なる考えが出て来る。今までの道程を思いめぐらし、自分の過去を改めて再確認しようではないか、又暗示してゐるのであるうと考へたり。我々がこの過程に差しかゝらないまでも、何時の時でも自分の現在まで歩んで来た行為上について真摯なる気持で、第三者的な立場で自己を見つめる時があつてよいのではあるまいか。

この気持さえ持ちあわせていれば、自分の周囲でいかなる事態が生じようとも、正しい道を進んで行ける一つの方法になり得るのではなからうかと思ふ。

### (三)

若い大學生はあまりにも未来を無視し、現在をすてた行為を示すべきではない。自己をすてるにはあまりにも軽卒すぎる、その様な行為は現在の未来の、そして過去の同輩に対する完全なる裏切りであり人間性の喪失である。この様な態度に出た時には、余程の考慮の上であるにせよ、今まで近くにいれた友とは離れ世間からは見はなされ遠ざかるであらう。完全なる精神の敗北であり、人格形成層の空洞の現われである。この様な無謀の氣持にとり憑かれた場合、やはり他人から意見される前に自分自身で最初の志を再び思い起こしてみよう。初めに門の前に立つた時の気持はどんな感じであつたらうか。最初からすてばち門をくぐる者なんて居やしない。不安と希望に胸をくくらませて、見知らぬ同輩、先輩たちの中に勇気

をふりしほり はてしなげ未来と可能性とを夢みて飛込んだのではなからうか。未知なるものへ積極的  
に自分に打ち打つて参加することは、少数の者には大きな問題なしに受けこめるかも知れないが、大半の人にとってはやはり大なり小なりとも苦悩かあつたと思ふ。その苦悩を乗り越えて来た以上同じ道の中に入った以上 個人個人の生活は違つてし 同じ環境の中で研究を進め、若き日を遊び  
楽んで来たのであるならば、最初の勇氣と希望とを再び呼びもたすべきである。あらゆる行為について苦悩は付きものである。事を進めるにつれて望の有るのは決心する前から知れた事ではないか。途中で終りと言ふ事があるうか、初心貫徹、いついかなる事態が生じようと断固たる氣持を持ちたいものである。大学生活は特殊な技能だけを身に付ける所には非らず、あらゆるものを材量として人間性の確立を目ざして進むべきものではあるまいか。おぼろく初心を思い起こして見るうちに 今の自分が恥ずかしく又なげなく感ぜられるに違いない。やるせなく感じ、それに反発するだけの節志はわいてこぼれぬものだらうか。だがど

れ以上に絶望に似た半ば自分には非ずあきらめめ態度に出た場合 どれほど自分がみにく、見える事だらう。その様な湿つた感情を出すことか悪いと知りながらどうする事も出来ない。これといつた友しいないし腹を割つて話し合える場所も人もない。  
何と言つみじめな事であるう。人がふさぎこんだ場合は過去の悪い思い出ばかりが思い出されるものであり、祭しかつた、嬉しかつた思い出も自然と何の意味も持たない。あじけない思い出の様に感ぜられ、今までの心の大部分をしめていた愉快な氣持も心の隅に追いやられて 小さな存在となりはてている事であるう。それと正反対に何の抵抗もなく思いとつりに昔の運人を行つた場合は、これ又止まる所の知らない疎な 他に及ぼす被害も目に付かず独走しなごなごのた。人それぞれ性格の違いや氣質の大小はある。その多種多様な人々の集まりである社会に於て 一人の意見や考えを社会全体の考えとして取り入れることは、ゆるせぬ事であるばかりでなく、それがともかく良い案であつたとして全面的に認めるわけには

かたいてあるう。一たび決断した事を、氣ままな気分や感情で左右したらどうなるであろうか。その様ないいかげんな、不安を伴った気持は多くにして起こり得るけれども、たとえどの様な事態が来しようとも、堅卒な気持で最初の決心をまけてはならぬと思う。

時として起つた場合、その感情を認めることがあつたならば、おそろくその後の進歩は危ぶまれるであろうし現在までの成を脱することは困難であろう。万が一出られたと思われればそれは虚勢であつて真なるものではないし、生きてるかぎり不安と焦躁とに悩まされることの方が多いであろう。

## 社会人一年生

昭和四十年年度卒 高松 俊二

小生が学校を卒業し、社会人となつてから早くも二ヶ月を経ようとしている。初月殆ももらつたし、会社の中もや々と一人を歩ける様になつた所である。ここで小生の社会人一年生として少々不

安の胸中を書かせてもらおうと思つて、まだまだ学生気分を抜けない小生にとつては、実社会の風は想像した以上に激しく厳しいものでした。卒業後は試験は無いだろうし、その苦痛から解放されるとホッとしていたところ、それが大きな間違ひである事を出社日数わずかの間に知らされました。会社では毎日、が真剣勝負で、学生時代とは又違つた意味の試験の連続のように感じます。学校の試験の様に何点く、といった点数の評価は有りませんが、その成果は上司や同僚からの色々な方面から批判、評価されるのですから、学生時代の試験以上に厳しいものではないでしょうか。学生時代の学向は何等役に立つていそうにもないし、こんな事で良いのだろうか？と、少々不安な気持でいるところですが、現役の諸君もこの様な事を書いて「高松」も「だらしのない双だ」と思つかも知れませんが、これが小生の偽らざる胸中です。この様な気持を脱してこそ一人前の社会人として育つていくのだらうと思ひます。

つまりぬ華を書いてしまつて申し訳ありません。終りに社会人一年生としてではなく、卒業生とし

て現役の諸君に言つておきたい事がある。それはやはり学生々活は最高のものであるという事です。小生も今になつて学生時代に何れやらなかつたので心残りです。勉強に、遊びに、毛筆、ペン習字の練習に多に励み、書道部の発展に尽して下さい。

## 現代女性気質

光 輩 原 通 幸

又々の原稿依頼である。機関紙が連盟其の他福大機関誌作成の時期になると不安で日々を送る。逃げても、学生諸君に結局は掴まってしまう。今日は書とは全然関係無し。又男性諸君にとつて最も興味深い所の女性について活字として頂いた。私ハ女子高に俸職して早や三年目を迎える。私の教えた最初の生徒は実社会三年生となつていく訳だ。わずかな経験であるが、毎日多くの女子生徒と上向き共にしていると、女性というものの、本当の姿を、諸君が見ようとしても見る事が出来

ない点)ナラリ、と見たので今回はその話をしてみようと思う。(男性諸君の目つきが違つて来た様だ！)

### 一、男性観

私は今迄男性として女性に対する興味は持っていた。又女性が男性に興味を待っているところとして勿論思つていた。しかしこれほど強く、これ程深いものとは知らなかつた。女性二人奇れば話の九〇パーセントは男性の話と思つて、諸君！前達いなイン、ましてその(話の)前に男性が現われると女性の感覚は鋭くなり、その男性の全てを観察し頭の中で正確な計算機が動き出す。スタイル、顔、服装、趣味、予想収入等々……。男性の前での女性は色々な姿態を見せる。①黒心を装い型 ②自己の最大の長所御披露型(例えばは顔か美しいと自負している者は必ず顔額を男性の方に向けろ)③積極的に近づいて話しかける型。④書けは限りない型が有る。無論、純心は大和撫子型も有ることを男性諸君お忘れなく。

### 二、恋愛観

現代女性は結婚と恋愛とは別とする傾向が強い。

不意な素晴らしい、他の女性が嫉妬を感じる位  
の外見のよい、又金払いのよい男性と熱烈な恋愛  
を望む。然しなから現実には必ずしもそうでない場  
合もあり、女性にとつて、最初に愛した男性に大  
部分の者は定める様である。又初恋の男性に似た  
向かを望む点もある。としかく昨今の現代っ子は  
遊ぶことには秀れた才能を持つて、割切つた気持  
でタイトを樂しむという華があるので男性諸君、  
御用心の程。

### 三、結婚観

伴々現実的で、第一に生活力を男性に望み共稼  
ぎん子供が出来るまではヨシとするのが大部分で  
ある。とにかく大きな望みは持つておらず、小さ  
なきれいな家と小さな庭と子供と樂しく平凡な生  
活を望み、夢みている。恋愛では大邸宅を望み、  
結婚では小さな家と庭を望む。しかし一部の女性  
には一流の大学を出、一流の会社、公務員の出世  
コースの駁勇を強く望む者もいるし、お金があれ  
ば年など問題でないとする者もいる。チャツカリ  
者というよりカッパツとした感があるが、男性諸  
君如何？

### 四、人生観

特別にしっかりした一生観といつたものを持つ  
ている者も段々少なくなつて来ている。一男性諸  
君、結婚後、練えたまえ、女性には化粧をする  
顔付きまで別人の様になる。態度も、礼儀も、人  
生観も化粧をしていられるかも知れない。諸君、化粧  
にだまされることがなく女性の素顔と素顔の心を見  
る事をお忘れなく。

終りに、女性というものは不思議なものである。  
十七、八で母親の様な一面を、子供的一面を、女  
性という動物的一面を、生活力逞しい一面を、淑  
女の様な光々とした一面を備え、それらのものを  
べールで包み、他人に、特に男性には見せない  
のである。

女性を、過去の人々は色々な表現をしてきた。  
しかしとれど一部しか語つていないものである。  
世の中で最も不可思議にして素直なものは、女性  
ではなからうか。……多くの生徒の中で女性と  
いうものを職業柄考え、共に行動して来たが、ま  
ったくわからないのが本当である。わかろうと思  
う事は所詮、無理なのであるうか。

# 「高群逸枝」という女

— 火の国の女の日記より —

經濟學部四年 渡辺正道

おとま帰る帰る熊本に帰る

おと外郎もち忘れて。

おとんか帰ったちゅうて誰がきてくりゆか

益城木原山風ばかり。

風しゃ二ござらぬ汽笛でござる

汽笛なるなるよ悪い出す。

おとんかこまかときや 寄田の家で

朝もはよから汽車みてた。

— 望郷子守唄の一節より —

僕はこの歌か大好きだ。彼女のわりびれぬ熊本

と思ふ気持、それに熊本弁を望々と自由気ままに

快つて休ったこの詩を、今、この詩は彼女

(高群逸枝)の生前の記念として、僕の町松橋の

里、寄田神社に碑がたてられてゐる。僕は中学生

の頃から何度となく奇り、又高校時代も良くこ

の級風景は神社に遊びに来たものである。又彼女はその他に女性史の研究者としても有名であつた。彼女の若かりし当時は「平塚らいちよう」とともに女性の牽引者でもあつたといわれ先年となつた。その記念として、昨年、夫、橋本憲三によリ「火の国の女の日記」が補註出版された。僕はすこし高価であつたが色々な紹介により早く買いたい気持にせまられていたので買ひ、最初一度ストリートで読みおえた。しかしその時は読むのにかられていたので何の気持の変化もなくただ空白の状態であつた。二度目に読んだ時、彼女のある反骨精神かきみように頭に残つた。つまり、肥後人特有のあの「モッコス」という気風がたてよつてゐる様に思え黙々と研究し進む彼女の姿にうたれ又彼女の自己との葛藤と一途な研究心に心うたれたのである。彼女は幼少を熊本の片岡舎で生活し当時進歩的であつた父と母に育てられ、その才蘊は当時から、目を見はらせるものであつた。彼女は父の転勤(当時小学校の校長)にともしない転々と学校を渡り歩き、それで七彼女の持つて生れた反骨精神で、尋常小学校卒業時には当時異例とま



と言われた答辭を讀む秀才であつたのである。しかし、この様な彼女でさえも重い病にはかたなかつた。それで師範を退學するや療養生活につとめ後に文藝校を出てへこの時文藝校長禰田令吾氏の「一事に徹せよ、狂は狂になるべし」のことにばに感化されて、そののちまでつらぬくのであるか、代用教員を数年つとめ上束するのである。そして代用教員時代に知り合つた男性の為に彼女は青年時代を恋愛と結婚について苦しむのであるが、この男性こそ後の夫、橋本憲三であり、彼女に自分の欠点を見い出さしめ、そこに苦悶と自己嫌惡にみちた生活を営ませるのである。夫、橋本は片田舎に生活しながら雑誌の感化を受けてより進歩的考えをもち、当時紡績工場で働いたこともある彼女のロマンチストで、少々のフロレタリアートに新しい芽を生ぜしめるのである。又、夫、橋本と彼女の間における恋愛の芽はえは多大なるものであつた。橋本により彼女のロマンチスト的性格はふみにじられ、彼女が夫に出した「永遠の誓い」も同じに打破され、彼女の都合での生活の屈辱の沼は深まるばかりでそれを解くため彼女は都会の

図書館で色々な本を讀み、パンソンの「六路歷程」に感銘し、今の自分を救うのはこれだと思ひ、すでに二十歳才の若さで四回巡礼の旅に出るのである。この巡礼の旅は彼女にとつて良かつた。そして帰ってくるや橋本の所で新しい第一段階の感情革命を起すのである。この様にして自分の青年時代を苦惱と嫌惡ですごした彼女こそ現代青年の持つべき絶対必要なことと思ふ。現代青年は悩むことを知らないと言われる今日、本當に人術を考えてみることをするべきではなかるうか。彼女が後生最大に愛する人物とした夫、橋本憲三にしても、彼女との交際がなかつたならば、そこにはなんらの変化もなく、ただ現磨の一教師としてしかすぎなかつたのではないだろうかと思われる。彼女は橋本と結婚し一人上京と帰郷のくりかえしを二度三度おこなう中で再度の感情革命をするのである。つまり山の乙女であつた当時から女として成熟し、その精神は悲鳴をあげて生き悶え、露骨な現美的苦惱、その他にまなされ、ついに以前の自己防衛をも断ち、彼女自身のことばによれば「觀照派」となつたのである。そして東京郊

木の森の中の家での研究生活に突入するのである。が彼女夫妻には子室が恵れなかった。(長男早死) どの為に彼女は生涯「タロコ、ジロコ」などの稿を愛することによつて生活をするための愛の死に耐して次の様に書いてゐる。「生命程美しいものは無い。だから生命の死程空しくて、悲しいものは無い。我々の伝記は生命への美しい反面と死への悲しい反面を持つ。この様に美しく、またはかない生命を持つ我々相互は憎みあつてはならない。愛しあねばならない……」。このことばこそ現代青年が今後生きてゆくための美しい「おきて」ではなかるうかと思つゝ、愛することのこの単なる一つのことばさえ、一つまちがえば解になるか。大きく見れば「戦争」と言つて悲さんな姿さえも作り出さずにはいないのである。それ故に我々は彼女が指摘する「愛」について深く考えなければならぬ。学生生活の単なる誤解もある面において「愛」の変型と考えられようし、愛のゆきすぎが逆の芽を出すことさえある。森の中の生活は夫橋本のことばをかりれば彼女は「緑の館のリーマ」であり、「ジプシー女のカルメン」であ

つた。その様な状態での研究において「日本文化史」の研究に専念するのであるが、この東京の森の館での生活こそ彼女の肥後魂を端的に現した時代ではなかるうか。又彼女はこの森の中で「愛すること」と、それはゆるすこととなく、肯定することだと言つてゐるし、又つまりすべの生命は、他の生命をおびやかすことなしには生存しえないことが肯定されると……ともし言つてゐる。東京での生活、つまり日常生活は常に苦しい毎日の連続であり、ついに彼女は病におちいり、女性史の研究し一時ストップした状態となり、それが元のまに帰つたのはだいたいふんたつてからである。夫憲三の献身的な愛情にはぐくまれ病いあがりの彼女は自由なる研究をすすめることか出来たのはいうまでもなく、色々な史料は、その時代の困難性にもかかわらず夫 憲三によつてすべてといつてよい程集められ、二階の彼女の本棚に運ばれた。彼女も又夫のこの気持を解し毎日の研究に橋を出し、一時の美しい夫婦愛をえかいた。しかしそれしつかのま、夫 憲三の勤める会社の破産で一家は新たな局面にたたされ苦しい戦いの段階に突入

東京郊

した。この苦しい連続の中に愛の光はなぜかけられ、彼女の野望を遂行させる為に、着尔後援会なるものか出来、彼女自身も今の研究を「天から与えられた道」として研究に邁進した。その結果、色々の女性史関係の本が出版され、彼女の白熱した時代へ彼女のしつとも充実した時代へが訪れたのである。彼女は「招婿婚の研究」の完成を初めとし「母系制の研究」「女性の歴史全四巻」など彼女が所期した新しい学問の分野である女性史学の開花をなしたのである。彼女はこの研究開花の喜びを歌にたくして次の様にうたっている。

三十年心一途に書きつぎし

女性の歴史完章の声。

その後彼女の生活を見る時、それは女性の歴史完成への研究につきるともおもえる。そして彼女は鶏を愛しながら研究をつづけたのである。

しかし昭和二十八年、望郷子守唄の出来るころから彼女は愛を問題にしはじめている。「愛とは何か」「愛とは「知ろうとする時には遠ざかり、信ずる時には把握される」これが愛の本質だと。又、「人を憎むことはやすく、愛することは困難

である」と、こう言われた時困難な道を進みたい。又「欠点にその人を見るより、美点にその人を見る」と……。この様に一個高群逸枝を見れば数十年を書いた彼女の足跡に感服せずにはいられない。みえも外廟もなく、若年における自己との葛藤、老年における一途な研究心、夫、橋本憲三と共に歩いた道程、女性の歴史の実践の様があるといわれた夫婦生活、彼女の六五才をすぎてもなお一日一〇時間の勉強、これらを総合する時、彼女こそ昭和に生きた偉大なる女性といえるのではなからうか。夫を愛し鶏を我が子の様に愛した高群逸枝はしかし反面さびしかりやで友人に泣き自分にないた女であった。彼女は「最後のことば」として次のことばを愛してこの世を去ったのである。

句私を愛してくれろすべこの人達よ、どうか次の言葉をおもい出してほしい。すべて生れたものは滅びるといふことを、そして解脱するために休みなく努力してほしいと。

—— 仏陀が弟子に向って言う言葉 ——

# 雑

# 談

(三)

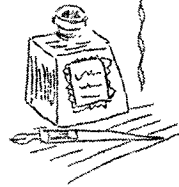
近藤 敏則

先日 高校時代友達だった仲間の一人と会い、久しぶりに昔話をし、話に熱が入って時のたつのを忘れる程楽しかった。その中で彼いわく、大学に入ってから何か一つこれだけは思いつきりやうた。これだけは誰にも負けないというような事をやりたい。と熱心に言っていた。彼にはもうその基盤も出来、着々と自分のやりたい事を思いつきりやうている。この自分のやりたい事をとんとんやうて、そして思いつきり大学生活を築き、これは大学生なら誰もか常に思い、考え、いて仲々実現してない事柄ではあるか。科学と産業システムの発達した現代に於て大学生活こそ自由に話し、勉強でき唯一の場であることも周知の筈である、しかるに現代の学生気質たるもの無気力であり、只、娯楽に走る傾向は一体なぜであろうか。つまり、俺は今日からケチに徹するぞと宣言して、呆して何人か人か徹し得たか。私はケチ

に徹して経済的にも社会的にも成功した人は本当に立派だと思ふ。高校の友達も、一つの事に徹しようとしている。私もこの二年間大学生活を送ってきたが今考えると、何も残っていない。只親に無駄金を使わせ、時間を無意味に過ごしてしまつたやうだ。私は今こう思っている。一つの目標を立ててその事に徹してみよう。それが何であるかは今はわからないが、その目標も数日で決まるだろう。そして、仮りに中途で学校を去るとしても、この二年間徹し得たという気持が残ればそれはきつと将来に役立つものが精神面に何らかの形で残るものと確信している。又、徹し得るか否かを大学生生活か思ひ出多い学園になるか、只の近代的建築たる無の学校になるかか決めるのはないかとさえ考えている次第である。最後に一年生の諸君に言いたい事は、なるべく部室に顔を見せたいのである。部室は幹部連中だけの部室ではない。君らは福大書道部を背負つて立つ人間である事を忘れてはならない。そして、一年間を過ぎた頃にはすでに書技もうまくなり、人間的にも成長していることだろう。先輩も悩み事をきくと心

よく聞いてくれるだろう。そしてアドバイスをしてくれ。自らお手本を示してくれるだろう。一年生諸君が書道部に入ってきたか、たという気持ちを抱かれることを願っている。

## 編集後記



機関誌五号は、年度の最初でありますので内容は全体的に頑い希望を述べる調子のもので多かったです。しかし M.V 生のように文学鑑賞に傾く方向を教えたいたようになきがいたします。なおこの発行にあたり、先輩・部員、その他いろいろな人に御協力していただいたことを心から感謝いたします。

編集委員

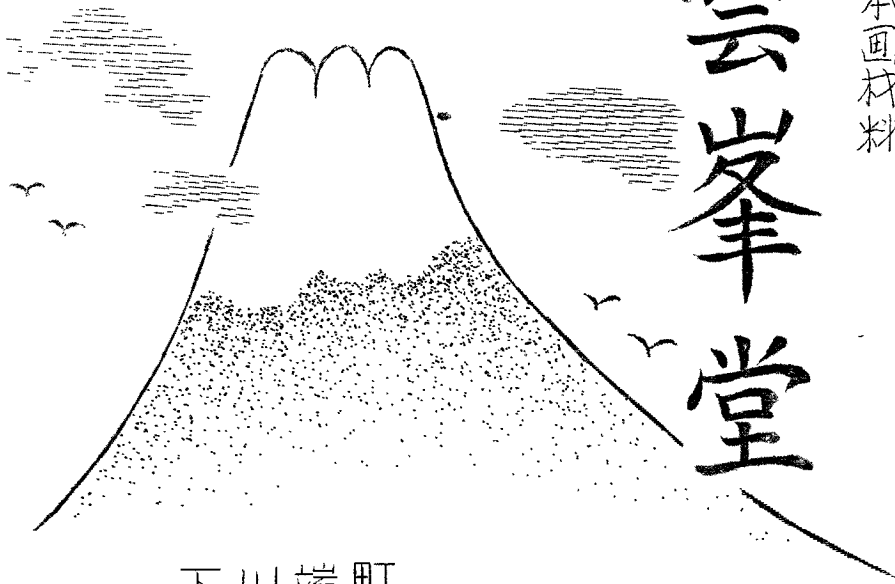
杉原 越 連 也  
山 清 一  
博 幸

## 書道部年間活動表 (昭和41年)

4月	春季合宿 2年生以上練習開始 (204教室、日本街道場) 新入部員募集 部員総会(新入生も含む)	8月	県展合宿
5月	新入部員練習開始 新入生歓迎コンパ 春季学文会各部対抗ソフトボール大会	10月	秋季学文会各部対抗ソフトボール大会 強化練習 七限習
6月	強化練習 学術文化部会研究発表週間 全国総合書芸展出品	11月	第六回西日本高等学校揮毫大会 同審査 同展示
7月	夏季合宿 福岡学生書道連盟合同練成会	12月	強化練習 九州地区大学連合文化行事出品 下関硬筆展出品
		1月	送別コンパ 役員改選
		2月	強化練習

書道用具  
日本画材料

# 雲峯堂



下川端町

TEL (28) 0520  
(28) 1550

電話一本 清潔なふとんがお手元へ

## 貸ふとん

洋ふとん エバーソフト、マットレス  
枕、浴衣、丹前、座布団、蚊帳、毛布



合名会社 丸屋

本店 福岡市薬院大通り六ツ角

TEL (74) 6069, 0593

北九州営業所 八幡区大蔵公園前

TEL (68) 4729

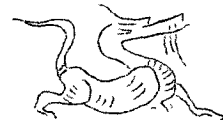
平紙のデパート

株式会社 河原田和洋紙店

福岡市下川端町10番4号  
(旧翹屋町通り)

0805  
電話 (29) 3581 番  
5383

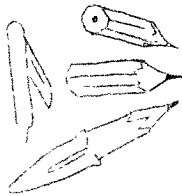
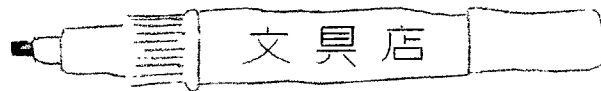
一品香



とてもおいしくて安い

本店	天神町64-1	TEL 74-2392
支店	渡辺通/丁目11の8	76-1752
支店	東中洲大通	28-3389
支店	東大橋545	54-4556

立石商店



本店 六本松3丁目  
TEL (74) 5440  
支店 六本松九大分校正門前  
TEL (75) 5823

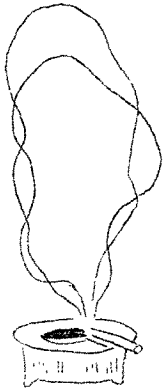
食事と喫茶は



# ひかり食堂

福大バス停前

TEL (82) 9694



# 中の子商店

タバコ・パン・牛乳



福大バス停前

TEL (82) 9993

# スズラン

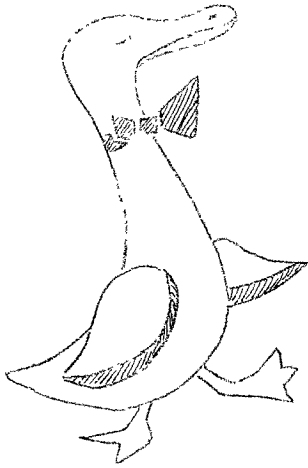
喫茶・軽食

福大バス停前





みんなのつどいの場所



つどい

カツ定食  
スパゲティー  
カレー etc.

福大バス停横

芝元 鷺 第5号

福岡大学書道部機関誌

昭和四十一年七月六日

編集発行 福岡大学書道部

編集委員 笹山 清一

原 博 幸

船 越 達 也

印刷所

福岡市住吉新町五七四

三洋プリント社

TEL (43) 4225